

科目 基本 情報	科目名 マーケティング特別講義	期 別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -平澤 敦		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学 び の 準 備	ねらい 企業活動ならびに消費者行動におけるリスクマネジメントについて 、ケーススタディや欧米の最新理論も交えながら詳説します。なぜ リスク対応が必要となるのか、マーケティングに関わる心理学や経 済学の観点からも考えていきます。	メッセージ 企業経営、マーケティング活動においては、企業価値向上や利益最 大化が重要となります。そのためには適切なリスクマネジメント が必要です。今日のリスクは多種多様で、リスクに応じた対応策が 必要となります。リスクマネジメントはきわめて重要です。その奥 深さをぜひ学んでください。
	到達目標 社会生活において「リスク」という言葉は、今や日常用語化しているといつても過言ではないでしょう。企業活動やマーケティング活 動においては、リスクのない取引は存在しませんし、リスクを「回避・軽減・防止」するだけでは、事業拡大や機会を失ってしまう恐 れもありますから、時には「リスク」を「とる」行為も必要となります。本講義では、リスクの多様性を把握し、それを適切にマネジ メントメントすることがいかに重要なのかを理解・習得することを目標とします。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	リスクおよびリスクマネジメントとは何か？（ガイダンス）	リスクについて事前に調べること。
2	リスクとは何かを考える（さまざまな分野における定義）	配布資料などの復習
3	消費者とリスク認知① ヒューリスティク、プロスペクト理論など	配布資料などの復習
4	消費者とリスク認知② マーケティングとの関連	配布資料などの復習
5	リスク対応（回避・軽減防止・保有・移転）	配布資料などの復習
6	リスク移転としての保険（損害保険）① 消費者のリスクとの関連	配布資料などの復習
7	リスク移転としての保険（損害保険）② 企業リスクとの関連	配布資料などの復習
8	リスクマネジメントの生成過程	配布資料などの復習
9	リスクマネジメントの必要性	配布資料などの復習
10	マーケティングと企業リスクマネジメント（ERM）①	配布資料などの復習
11	マーケティングと企業リスクマネジメント（ERM）② 一ケーススタディ	配布資料などの復習
12	リスクマネジメントの多様性 ブランド・レビューションリスクマネジメントなど	配布資料などの復習
13	マーケティングにおけるグローバルリスクとリスクマネジメント	配布資料などの復習
14	リスクマネジメントとクライシスマネジメント	配布資料などの復習
15	クライシスマネジメントとクライシスコミュニケーション	配布資料などの復習
16	総括（本講義を通じて伝えたいこと）	配布資料などの復習

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。毎回PPTと要点を記した資料を使用します。 参考文献として、中出・中林・平澤（2018）『基礎からわかる損害保険』有斐閣

学 び の 手立て
①私語は厳禁！これは必ず遵守してください。 ②ノートを準備してください。言ったことをすべて書く必要はないですが、何がポイントかを記述することにより、毎回必ず興味のあることを1つでもよいので調べることで、知識のほかに、探求心や問題解決能力が向上します。 「なぜ」という疑問を抱くことがとても大切です！

評価
小テスト（課題含む）30%・講義終了時の理解度テスト70%

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	リスクマネジメントを経営理論やマーケティング理論と関連づけて、その機能・役割をさらに深く理解していた だけたら幸いです。

科目 基本 情報	科目名 経営学特別講義	期 別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -吉田 洋		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	開講時に指示する。	

学 び の 準 備	ねらい 本年度の特別講義は、講義テーマを「情報経営論」とする。	メッセージ 「みなさん、情報経営論(情報システム監査)を楽しく学習していきましょう。(吉田)」
	到達目標 事例研究などを通じて、システム監査の計画と実施方法が、具体的に理解できるようにする。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	情報システム経営とシステム監査	講義時に指示する
2	監査の種類と監査人、システム監査の歴史	講義時に指示する
3	企業改革法、コーポレートガバナンス	講義時に指示する
4	システム監査、管理基準	講義時に指示する
5	システム監査関連基準・関連法規	講義時に指示する
6	内部統制概念、情報システムの内部統制	講義時に指示する
7	リスク・アセスメント・ITガバナンス	講義時に指示する
8	COBIT フレームワーク	講義時に指示する
9	システム監査の実施体制	講義時に指示する
10	システム監査の導入、計画、実施	講義時に指示する
11	事例1-1 情報システム運営	講義時に指示する
12	事例1-2 アプリケーションシステムとその監査	Sテストの対策
13	事例2 情報セキュリティとその監査	Sテストの対策
14	まとめ、ショートテスト	講義時に指示する
15	講評	講義時に指示する
16	[補講・予備日]	[予備日]

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 堀江正之『ITのリスク統制監査』同文館, 吉田洋『情報システム監査』税務経理協会, アイテック編『システム監査予想問題集』アイテック, 監査協会編『ここから始めるIT監査』内部監査協会。
	学びの手立て 遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1から3回まで程度の回数でショートテストの実施を計画している。 日時などは開講時に提示するので、準備不足・実力不足・受験忘れなどなきよう注意されたい。 なお集中講義であるので本講では、補講・オンライン試験・追試験・再試験などの実施は予定していない。

学 び の 継 続	評価 概ね次の通りとする。 発言・質問・課題・ショートテストの達成度が85%、平常点が15%である。
	次のステージ・関連科目

科目 基本 情報	科目名 産業情報特別講義III（eビジネス）	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -中島 洋		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	初回講義時に連絡する。	

学 び の 準 備	ねらい 現代社会では、膨大なデータが氾濫し、企業内外の様々なデータを有効活用することが事業の成否や企業競争力を左右するとまで言われている。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）は今後のビジネスや社会を大きく変えると言われている。このDXやAI活用時代に向けて、eビジネスを概観し、個別事例を通してより深く、その重要性を学んでいく。	メッセージ eビジネスの全体像を学び、事例研究やグループディスカッションを通して、その重要性を考えていく。積極的に学びたい意欲のある学生が登録することを望む。
	到達目標 eビジネスへの関心を持ち、具体的な事例研究を行うことで、実務にも繋がる基礎知識を整理、把握できるようになるであろう。実際にインターネットなどで情報収集しグループディスカッションを行うことにより、知識習得できた学生については、eビジネス分野での企業研修（インターンシップ、OJT等）が可能となるレベルに到達できると考えられる。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業ガイダンス・新事業・新市場創造するeビジネス 概要理解	用語確認
2	デジタルはなぜ現状を破壊するのか？	インターネット利用 授業復習
3	(討議) 欲求が導く～デジタルが変える10年後、20年後の世界・ビジネス	インターネット利用 授業復習
4	eビジネスを発展させる技術 インターネット、クラウド、スマホ、ロボット、AI etc.,	インターネット活用・用語内容確認
5	企業研究 eビジネス技術で急成長した企業	インターネット利用 授業復習
6	(討議) 例示した企業のIR情報から変化を読み取る	インターネット利用 企業研究
7	eビジネスの成長（ニュービジネス）に取って代わられた産業（衰退する産業）	インターネット利用 授業復習
8	業界研究 小売業、卸売業、新聞社、雑誌社、放送局は生き残れるか？	インターネット利用 授業復習
9	(討議) 旅行サービス、観光産業を支えるeビジネスとは？	インターネット利用 業界研究
10	企業研究 オフィスを変えるeビジネス 経理、人事、営業、総務	インターネット利用 授業復習
11	企業研究 働き方を変えるeビジネス ギグワーカー、ワーケーション	インターネット利用 授業復習
12	業界研究 自動車のEV化、自動化で変わる産業構造、eビジネスの群生？	インターネット利用 業界研究
13	企業研究 eビジネスの源流 変化続ける巨大ITサービス グーグルの研究	インターネット利用 授業復習
14	eビジネスの影 サイバー防衛 EUや中国の規制強化、セキュリティ産業出現	インターネット利用 授業復習
15	サイバー攻撃 愉快犯、金銭目的、敵対国の中核機構の破壊（戦争）	インターネット利用 授業復習
16	試験：90分 課題提示、小論文提出	インターネット利用 授業復習

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 市販テキストは使用せず、ウェブ教材もしくは独自テキストを使用する。参考文献および資料については講義時に紹介する。

評価	学びの手立て 履修に際して、基本的に欠席は認めない。各回の講義で知識や技術をステップアップして学んでいくため、途中で休むとついて行けなくなる。授業内容の予習は文献に加え、インターネットを活用し事前に内容テーマを検索し、積極的に知識獲得を目指すことを望む。また、技術的な質問も隨時受け付けるので積極的に授業に参加する意識をもって取り組んで欲しい。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 (関連科目)データベース、経営情報システム論、専門演習I・II、卒業論文演習I・II (次のステージ)eビジネスの重要性やニーズを学び、より実践的な知識を学ぶことができる。この経験より企業実習やOJTなどにも対応可能になる。是非、この知識および技術を次のステップである企業実習や就職活動に生かして欲しい。

科目基本情報	科目名 日本文化特別講義 I	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -助川 哲也		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 逆境の中から生まれた文芸表現の一つに「ハンセン病文学」があります。世界的に読者を得た小説『あん』を始め、学生には、いくつかの作品に深く触れもらいます。日本の負の歴史を知つてもらうとともに、「生きることの意味」を新たな視点で獲得し、人生と世界を見直す機会としてももらいたいです。	メッセージ ハンセン病文学とルポルタージュ作品を読みこむ以外にも、映画『あん』の上映、沖縄文学の作家との対談なども行う予定です。シリーズなテーマではありますが、多くの発見に恵まれる授業となるはずです。
	到達目標 1、ハンセン病文学を通して、日本の負の歴史を知る。 2、なぜ国家を挙げてハンセン病患者を排除し、差別を黙認してきたのか。その理由について語れるようになる。 3、「生きることの意味」について深く考え、今後の人生を新たに問えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	回	テーマ	時間外学習の内容
	1 小説『あん』を読みこむ。	1	小説『あん』を読みこむ。	小説を事前に読んでおく。
	2 小説『あん』を読みこむ。	2	小説『あん』を読みこむ。	小説を事前に読んでおく。
	3 映画『あん』上映。	3	映画『あん』上映。	小説と映画の差異を書き出す。
	4 小説・映画『あん』についてスライドを使用した講義。	4	小説・映画『あん』についてスライドを使用した講義。	重要箇所の整理と理解。
	5 ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	5	ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	6 ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	6	ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	7 ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	7	ハンセン病患者のルポルタージュ作品を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	8 塔和子の詩集から生まれた楽曲を聴く。	8	塔和子の詩集から生まれた楽曲を聴く。	楽曲の感想を言葉で表す。
	9 北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	9	北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	10 北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	10	北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	11 北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	11	北條民雄『いのちの初夜』を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	12 北條民雄と川端康成の書簡集、朗読劇を視聴する。	12	北條民雄と川端康成の書簡集、朗読劇を視聴する。	重要箇所の整理と理解。
	13 大城貞俊『椎の川』を読みこむ。	13	大城貞俊『椎の川』を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	14 大城貞俊『椎の川』を読みこむ。	14	大城貞俊『椎の川』を読みこむ。	作品を事前に読んでおく。
	15 大城貞俊さんを招いて、沖縄文学、ハンセン病文学についての対談を聴く。	15	大城貞俊さんを招いて、沖縄文学、ハンセン病文学についての対談を聴く。	重要箇所の整理と理解
	16 大城貞俊さんとの対談に参加する。	16	大城貞俊さんとの対談に参加する。	対話のテーマを自分で設定する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	1、小説『あん』（ドリアン助川著 ポプラ文庫 660円 税込）
	2、小説『いのちの初夜』（北條民雄著 角川文庫 700円 税込）

学びの実践	評価
	各日、授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。キーワードを提示しますので、それを含めて書いてください。 「評価方法」 リアクションペーパー 10%×5 授業参加度 10%×5 「評価基準」 リアクションペーパーは重要ポイントとなる部分が含まれているか、論理的に書かれているかなどをチェックし、10点満点で採点する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 関連科目
	(2) 次のステージ

科目 基本 情報	科目名 多文化間コミュニケーション特別講義	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -横溝 紳一郎		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学 び の 准 備	ねらい 日本語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要な技術・知識について、包括的に講義を行う。	メッセージ 日本語教師が果たさなければならない役割は、非常に多岐にわたっています。本科目は、「クラスマスルーム運営」に焦点を当て、学習者にとって望ましい学習環境をどのようにデザイン・実現するのかを、理論・実践の両面から学んでいきます。
	到達目標 到達目標	1. 日本語教師の役割について説明ができる。2. 教材と学習環境の大切さについて説明ができる。 3. 教科書本文の使い方について説明ができる。4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さについて説明ができる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さについて説明ができる。6. 教師としての自分の言動をふり返るポイントについて説明ができる。 7. アーティキュレーションの大切さと実現方法について説明ができる。8. 評価の位置づけ・重要性と、テスト作成のポイントについて説明ができる。9. 自律的学習者を育てる方法について説明ができる。10. 学習支援者としての心構えについて説明ができる。

学 び の 実 践	学びのヒント		時間外学習の内容
	回	テーマ	
1	オリエンテーション、日本語教師の資質	指定されたテクストを読んでくる	
2	教材と学習環境（1）：カード、小道具、歌、視覚教材、映像教材等	指定されたテクストを読んでくる	
3	教材と学習環境（2）：辞書、生教材、黒板、教室外活動等	指定されたテクストを読んでくる	
4	教科書の使い方	指定されたテクストを読んでくる	
5	多様な学習者の理解	指定されたテクストを読んでくる	
6	多様な学習者への対応	指定されたテクストを読んでくる	
7	学習者との信頼関係づくり（1）：指名等	指定されたテクストを読んでくる	
8	学習者との信頼関係づくり（2）：アイ・コンタクト、学習者間トラブルへの対処等	指定されたテクストを読んでくる	
9	教師の言動の振り返り（1）：姿勢、立ち位置、身体の向き、ジェスチャー、表情等	指定されたテクストを読んでくる	
10	教師の言動の振り返り（2）：説明、指示、質問・発問等	指定されたテクストを読んでくる	
11	教師の言動の振り返り（3）：フィードバック、ペアワーク・グループワークのポイント等	指定されたテクストを読んでくる	
12	アーティキュレーションと評価（1）	指定されたテクストを読んでくる	
13	評価（2）：テスト作成のポイント等	指定されたテクストを読んでくる	
14	自律的学習者の育成	指定されたテクストを読んでくる	
15	教師の役割再考、学習支援者としての心構え、まとめ	指定されたテクストを読んでくる	
16	予備日	レポート作成	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 『クラスマスルーム運営』横溝紳一郎（くろしお出版、2011年、1300円+税）

学 び の 実 践	学びの手立て 1. 授業中の積極的な参画を最重視します。（授業中の私語・スマホ使用は厳禁！） 2. これまでの学習者としての外国語学習体験や、外国語を教えた体験を振り返りながら、授業に参加してください。

学 び の 継 続	評価 授業参加度（70%）と、レポート（30%）により評価する。欠席1回につき、「授業参加度」が5パーセントずつ減点される。＊欠席5回で自動的に不可となり、遅刻・早退は2回で欠席1回とみなされるので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出でおくこと。 ＊レポートの評価は、（1）まとめ、（2）意見・主張の明確さと独自性、（3）授業内容からの発展性の3観点で行う。

次のステージ・関連科目 身につけた知識と技術を、日本語教育現場や一般社会で活かすことをめざしてください。

科目 基本 情報	科目名 英米文学特論	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -山本 伸		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	yamamoto-s@tokaigakuen-u.ac.jp または教室で	

学 び の 準 備	ねらい 英米文学を非英米の視点（カリブ海地域、他）から眺めた時に見えてくる現代世界の構造的本質について、観念的、文学的アプローチと歴史的、文化人類学的アプローチを統合することで立体化した総括的概念としてとらえることを第一義とする。第二義的には、視点をさらに日本そして沖縄に絞り込んでいくことで現代世界と自己の関係性について主観的、客観的に考える。	メッセージ かつてニューヨークで暮らしていたこと、欧米、アフリカ、東南アジア、アセアンへの150回以上の渡航歴、現役FMラジオDJという経験、Online英会話講師、等々の利点を活かして体験談や音楽・映像を多用する展開になりますので、シラバスのニュアンスよりももっとずっと有機的な授業が期待できると思います。
	到達目標 本専攻のポリシーの四本柱は、1. 実践的な英語運用能力 2. 情報処理技術に関する基礎的知識とその運用能力 3. 英語圏の言語や文化に関する専門的知識 4. 多様な文化的背景を持つ人々と相互に協力し、自立的に判断し行動する力、をそれぞれ身に着けることであるので、(1)カリブの英語がどのような特徴を持つのかを学ぶ、次に(2)カリブの社会や文化および習慣や哲学等について知る、さらには(3)それらと沖縄および自己とを連関させることで自己を客体化すると同時に主体化する。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス／授業説明／その他	
2	カリブ海地域の歴史と教育①	沖縄の教育の特徴をまとめる
3	カリブ海地域の歴史と教育②（沖縄のパースペクティブから）	沖縄の教育の特徴をまとめる
4	カリブ海地域の社会、人種、アイデンティティー①	ウチナーンチュとは誰かを考える
5	カリブ海地域の社会、人種、アイデンティティー②（沖縄パースペクティブ）	ウチナーンチュとは誰かを考える
6	カリブ海地域の文化とコミュニティー①	沖縄のコミュニティーを考える
7	カリブ海地域の文化とコミュニティー②（沖縄パースペクティブ）	沖縄のコミュニティーを考える
8	カリブ海地域の文化と宗教①	沖縄の宗教／しきたりを調べる
9	カリブ海地域の文化と宗教②（沖縄パースペクティブ）	沖縄の宗教／しきたりを調べる
10	クレオリズムとグローカリズム①	チャンバラリズムについて調べる
11	クレオリズムとグローカリズム②（沖縄パースペクティブ）	チャンバラリズムについて調べる
12	平和①	沖縄から見た平和とは何かを考える
13	平和②（沖縄パースペクティブ）	沖縄から見た平和とは何かを考える
14	カリブ文学研究の現代的意義	カリブと沖縄の連関性を考える
15	質疑応答／意見交換	カリブと沖縄の連関性を考える
16	試験	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：山本伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）および配布プリント 参考文献：山本 伸著『琉球マヅヤーでーじ読本：ヒーローソフィカル沖縄文化論』（三月社） 山本、他編著『ブラック・ライブズ・スタディーズ』（三月社）
	学びの手立て 百科全書である文学を通してカリブ海地域のあらゆる概念を全般的に理解することを手始めに、授業を重ねていこううちにカリブと沖縄の連関性を深く意識することで、沖縄に生きる皆さんが「自己」を分析、理解できるようになっていければと思っています。授業（および課題メール）では深みのある意見交換を期待しますので、積極的な取り組みの姿勢と発信ができるように準備しておいてください。

学 び の 継 続	評価 課題メール等に関する積極性25%、受講態度25%、試験50%

次のステージ・関連科目 カリブ文学・文化に限らず、異文化・異文学を学ぶことは必ず自己へと還元されることを忘れないで、最終的には卒業論文に向けての総論的視点（より広い視野での現代世界観、他者との関連性を通しての自己、現代社会と沖縄、文化と社会、等々）を意識した研究姿勢へとつなげてほしいと思います。

科目 基本 情報	科目名 英米社会文化特論	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -北出 慶子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	E-mail、授業終了後に教室で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい この授業では、異なる背景、価値観、習慣、等を持つ人とのコミュニケーションにおいてどのような問題が生じ、どのような対応が必要となるのかを多様な事例や理論を通して知ることを目的とする。 異文化への好奇心レベルで終わらず、実際に多文化社会の共生、そして文化背景の異なる相手とうまく快適な人間関係を築くためにはどうすればよいかを考える機会とする。	メッセージ グローバル化が進み、さらに多様な価値観が存在する時代になるといわれています。文化の違いは、国や民族単位のものだけではなく、世代差、地域差、そして個人差として捉えることが重要となります。そんな中、自分が無意識に持っている「あたり前」はどんなものか、「それはないだろう」と思うような他者の「あたり前」はどのようなものか、事例とともに一緒に考えませんか。
	到達目標 1. 文化によるコミュニケーション・スタイルの違いについて具体例や経験から認識する。 2. それぞれが持つ「常識」を振り返り、ディスカッションを通し、各自の持つ文化や価値観を意識化する。 3. 文化的違いを知るだけでなく、実際に異文化の相手とうまく意思疎通を図り、双方にとって快適な関係を築くためのいくつかの方針や姿勢を理解する。 4. ある異文化事象について表面的な異文化理解だけでなく、クリティカルな視点（一般的な解釈とは異なる角度からの捉え方やマイノリティの立場）から理解しようとする態度を身につける。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	なぜ、異文化間コミュニケーションを学ぶのか	授業内に提示した設問に答える
2	多様な文化の捉え方	授業内に提示した設問に答える
3	コミュニケーション・スタイルの違い その1	授業内に提示した設問に答える
4	コミュニケーション・スタイルの違い その2	授業内に提示した設問に答える
5	コミュニケーション・スタイルの違い その3	授業内に提示した設問に答える
6	非言語コミュニケーションにおける違い その1	授業内に提示した設問に答える
7	非言語コミュニケーションにおける違い その2	授業内に提示した設問に答える
8	非言語コミュニケーションにおける違い その3	授業内に提示した設問に答える
9	文化と価値志向 その1	授業内に提示した設問に答える
10	文化と価値志向 その2	授業内に提示した設問に答える
11	学期末ミニプロジェクト案の相談	授業内に提示した設問に答える
12	どのように異文化を受容していくのか？	授業内に提示した設問に答える
13	うまくいく異文化接触とは？	授業内に提示した設問に答える
14	異文化間コミュニケーション・スキル	授業内に提示した設問に答える
15	学期末ミニプロジェクトの発表・意見交換 その1	授業内に提示した設問に答える
16	学期末ミニプロジェクトの発表・意見交換 その2	発表準備 発表準備

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献を以下に記載します。 「異文化コミュニケーションワークブック」八代京子 他 三修社 「多文化社会で多様性を考えるワークブック」有田佳代子 他 研究社 「グローバル社会における異文化コミュニケーション」池田理知子・塙幸枝（編）三修社
	学びの手立て 1. 授業で紹介したテーマやキーワードをもとに各自で他の図書や論文を読み、興味テーマを掘り下げる、コミュニケーションの実践をしてみたりすることが大きな学びになります。 2. 国籍や民族にとらわれず、日本人同士でも○○人同士でも異文化間コミュニケーションであることを意識してみましょう。授業内のグループ・ディスカッションにも積極的に取り組むことで、新たな発見につながります。

評価	毎回の設問への答え（コミュニケーション・ペーパー）と小課題：40% 学期末ミニプロジェクトの発表：40% ディスカッションへの参加度：20%

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 本授業で学んだ知識や姿勢を土台に、受講終了後も様々な人とのコミュニケーションの実践を通して他者理解・自己理解を深め、刷新していってください。

科目 基本 情報	科目名 考古学特殊講義II	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 伊藤 慎二		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	問い合わせ先は E-mail 「s-ito@seinan-gu.ac.jp」 です。	

学 び の 準 備	ねらい 琉球列島からみた日本列島の考古学、日本列島からみた琉球列島の考古学の論点と課題を視野に、その関連基礎知識を学ぶ。	メッセージ 考古学の観点から異文化を理解するために、身近な地域と異なる地域の文化・時代を意識的に比較しましょう。
	到達目標 1) 日本とその周辺地域の考古学の基礎知識を学び、琉球列島の考古学の課題を理解する。 2) 考古学の観点から、異文化や現代社会を考える基礎を学ぶ。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画	回	テーマ	時間外学習の内容
	1 ガイダンス（講義の概要・考古学の基礎的な考え方）	1		シラバスの精読
	2 縄文時代の考古学と貝塚時代 1	2		配布資料記載の参考文献などを参照
	3 縄文時代の考古学と貝塚時代 2	3		配布資料記載の参考文献などを参照
	4 縄文時代の考古学と貝塚時代 3	4		配布資料記載の参考文献などを参照
	5 日本の城郭考古学とグスク 1	5		配布資料記載の参考文献などを参照
	6 日本の城郭考古学とグスク 2	6		配布資料記載の参考文献などを参照
	7 日本の城郭考古学とグスク 3	7		配布資料記載の参考文献などを参照
	8 日本の城郭考古学とグスク 4	8		配布資料記載の参考文献などを参照
	9 日本の南と北の考古学 1	9		配布資料記載の参考文献などを参照
	10 日本の南と北の考古学 2	10		配布資料記載の参考文献などを参照
	11 日本の南と北の考古学 3	11		配布資料記載の参考文献などを参照
	12 日本の南と北の考古学 4	12		配布資料記載の参考文献などを参照
	13 現代社会をめぐる考古学 1	13		配布資料記載の参考文献などを参照
	14 現代社会をめぐる考古学 2	14		配布資料記載の参考文献などを参照
	15 現代社会をめぐる考古学 3	15		配布資料記載の参考文献などを参照
	16 レポート	16		課題に取り組む

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	1) テキスト：なし 2) 講義資料：毎回資料を配布 3) 参考文献：各回ごとに紹介
学びの手立て	
<p>①「履修の心構え」 受講時の不必要な私語は認めない。 出欠確認については、毎回厳格に実施する。</p> <p>②「学びを深めるために」 専門科目であるため、専門用語の理解が必要である。講義後30分以上の復習を勧める。</p>	

学 び の 継 続	評価
	1) レポートを基に成績評価する。 2) 無断欠席5回以上は「不可」とする。

次のステージ・関連科目
1) 関連科目：継続学習やその発展のため、南島先史学、南島考古学、考古学特講の受講を勧める。 2) 次のステージ：考古学のより深い知識と実践法を学ぶため、3年次以降の個別テーマを掘り下げて深く学ぶ関連講義を受講して下さい。

科目基本情報	科目名 平和・社会学特殊講義Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	2
担当者 -高原 孝生		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	講義時間内に対応します。	

学びの準備	ねらい 平和研究の基本的なアプローチを知り、加えて核時代における日本の立ち位置について学ぶ。	メッセージ この授業では平和学の基本となることを扱います。平和学概論、平和思想、平和運動史、平和教育学など、他の平和学関係の開講科目の内容や、これまでの自身の様々な体験と結びつけることを意識して、聴講してもらえたたらと思います。
	到達目標 今日の私たちの平和観が、戦後日本のあゆみの上にあることを認識し、その価値と制約をともにふまえて、核時代に求められる平和への展望と手掛かりを得ることです。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会科学の成立条件：「紛争の転換」へ	授業内容の確認及び参考文献の読解
2	紛争をもたらすもの1：「資源の限界」	授業内容の確認及び参考文献の読解
3	紛争をもたらすもの2：「人の能力の限界」	授業内容の確認及び参考文献の読解
4	「コミュニケーションの限界」	授業内容の確認及び参考文献の読解
5	「社会化の限界」	授業内容の確認及び参考文献の読解
6	変革を妨げるもの	授業内容の確認及び参考文献の読解
7	「暴力の最少化」という課題	授業内容の確認及び参考文献の読解
8	「戦争」の規制という課題1	授業内容の確認及び参考文献の読解
9	「戦争」の規制という課題2	授業内容の確認及び参考文献の読解
10	国連憲章が構想する世界	授業内容の確認及び参考文献の読解
11	沖縄戦と日本国憲法	授業内容の確認及び参考文献の読解
12	「ヒロシマ・ナガサキ」	授業内容の確認及び参考文献の読解
13	ビキニ事件と核兵器の位置づけ	授業内容の確認及び参考文献の読解
14	「核兵器禁止条約」の意義	授業内容の確認及び参考文献の読解
15	ふりかえり	授業内容の確認及び参考文献の読解
16		授業内容の確認及び参考文献の読解

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	授業の中で毎回、指示します。とくに後半の学習のためには、夏休み中に以下を見ておくことが望ましいです。 島本慈子『戦争で死ぬ、ということ』岩波新書、2006。家永三郎『太平洋戦争』岩波現代文庫、2002（原著、1967）。川崎哲『核兵器はなくせる』岩波ジュニア新書、2017。同『核兵器：禁止から廃絶へ』岩波ブックレット、2021。中村桂子『核のある世界とこれからを考えるガイドブック』法律文化社、2020。 木村朗・高橋博子『核の戦後史』創元社、2016。

学びの手立て	学びの手立て
	後から授業内容を思い出しやすいように、自分なりにノートのとりかたを工夫しましょう。そして、目頃、新聞の国際面を見る癖をつけてください。

評価	評価
	リアクションペーパー(30%)と授業中に課されるテスト(70%)で評価する予定ですが、コロナ禍の状況等によって、レポートによる評価等に代える可能性があることを了解しておいてください。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	平和に関わる社会の諸問題に关心を持ち続け、社会科学、平和学関連の科目を学習してほしいと思います。

科目基本情報	科目名 社会福祉学特講A	期別	曜日・時限	単位
		集中		2
担当者 -八巻 秀		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	世話人教員：知名孝 (takashic@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい 福祉を含めた対人援助の現場では人間関係の知恵を学ぶことは重要である。本講座では、このアドラーの心理学を中心に、講義と演習を通して、より良い人間関係を作ることについて学ぶことを目標とする。	メッセージ この講義は講師のさまざまな場面での実践経験を生かした講義内容となっている。
	到達目標 福祉現場においては、利用者や職員など様々な人間関係が存在しており、その中の仕事に従事していくために、人間関係の知恵を学ぶことは重要である。 一般的に心理学は、個人の心理を探る・分析するものという印象を持たれているが、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが唱えた「個人心理学（通称：アドラー心理学）」は、個人の心を分析するのではない「より良い人間関係のための心理学」と言わされている。福祉現場で働く者にとって、この人間関係の心理学であるアドラー心理学を学ぶ意義は大きい。本講座では、このアドラーの心理学を中心に、講義と演習を通して、より良い人間関係を作ることについて学ぶことを目標とする。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：心理学の2つの流れ	配付資料確認と課題
2	アドラー心理学について、その概要	配付資料確認と課題
3	アドラー心理学の理論 ①	配付資料確認と課題
4	アドラー心理学の理論 ②	配付資料確認と課題
5	アドラー心理学の理論 ③	配付資料確認と課題
6	アドラー心理学から発展した理論 ①	配付資料確認と課題
7	アドラー心理学から発展した理論 ②	配付資料確認と課題
8	アドラー心理学の技法 ①	配付資料確認と課題
9	アドラー心理学の技法 ②	配付資料確認と課題
10	アドラー心理学の技法 ③	配付資料確認と課題
11	アドラー心理学から発展した技法 ①	配付資料確認と課題
12	アドラー心理学から発展した技法 ②	配付資料確認と課題
13	人間関係に活かすアドラー心理学 ①	配付資料確認と課題
14	人間関係に活かすアドラー心理学 ②	配付資料確認と課題
15	まとめ	これまでの資料の確認
16		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 「スッキリ分かる！アドラー心理学：人生を変える思考スイッチの切り替え方」ナツメ社
	学びの手立て 講義と演習を織り交ぜていくので、講義中のワークなどへのより積極的な参加を望む。

評価	授業内で複数回ミニレポートを実施する。そのレポート提出と出席点で総合評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉実習・演習関連、専門演習などと関連づけて受講していくこと。

科目 基本 情報	科目名 心理学特講B 担当者 -池田 浩	期 別	曜日・時限	単位
		集中		2

学 び の 準 備	ねらい 産業と組織の心理学とは、企業をはじめとした様々な組織で働く人々の心理や行動を対象とする心理学の応用的学問です。本講義では、産業・組織心理学の歴史的変遷を理解しながら、組織への参加（採用と組織化）、組織における人の心理と行動（ワークモチベーション、キャリア、リーダーシップ）、そしてメンタルヘルスとその支援などを学んでいきます。	メッセージ 本講義では、組織で働く人々の心理や行動について学びます。そのため、将来、働くうえで必須の学問と言えます。講義では、働く場面を実感しながら学んでもらうために、映像資料やグループワーク、新聞などの資料を適宜使用しながら進めていきます。
	到達目標 組織で生じている現象や出来事を産業・組織心理学的な観点から考察することができるようになり、さらに将来組織で適応的に活動するための素地を身につけることを目指します。	

学 び の 実 践	学びのヒント		時間外学習の内容
	回	テーマ	
1	産業・組織心理学とは：歴史とテーマ		参考資料の精読
2	採用と面接		配付資料の確認
3	人事評価		認知バイアスの具体例を考える
4	組織への適応と職務行動		配付資料の確認
5	ワーク・モチベーションの源泉		やる気の源を考える
6	ワーク・モチベーションのマネジメント		参考資料の精読
7	メンタルヘルスと心理的支援		メンタルヘルス対策を調べる
8	キャリア発達とその支援		配付資料の確認
9	職場集団のダイナミックス		集団における影響過程をまとめる
10	チームワーク		参考資料の精読
11	効果的なリーダーシップ		リーダーシップの条件を調べる
12	メンバーを下から支えるサーバント・リーダーシップ		参考資料の精読
13	リーダーシップのダークサイド		参考資料の精読
14	フォロワーシップ		参考資料の精読
15	仕事の能率と安全		参考資料の精読
16	まとめ		資料全体のまとめと整理

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	講義の中で適宜資料を配布する。 参考文献として、下記がある。 池田浩（編）「産業と組織の心理学」サイエンス社 山口裕幸・金井篤子（編）「よくわかる産業・組織心理学」ミネルヴァ書房 古川久敬「組織心理学」培風館

学 び の 実 践	学びの手立て
	産業・組織心理学は、多くの心理学の諸領域を基盤とした応用的な学問です。そのため、これまで学習した心理学の内容を振り返りながら受講して頂けるとより理解が促進されます。 なお、授業中の私語や携帯（スマホ）などの使用については厳しく対処しますので、留意して下さい。

学 び の 実 践	評価
	到達目標に対する達成度を把握するため、下記の評価を行います。 平常点20%、課題提出30%、最終レポート50%

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	キャリア心理学応用、産業組織心理学、心理学特講C、心理プロジェクト演習などの専門科目

科目 基本 情報	科目名 地域連携演習Ⅱ	期別	曜日・時限	単位 2
		集中	集中	

担当者 -砂川 亜紀美	対象年次	授業に関する問い合わせ
	2年	メール (ptt814@okiu.ac.jp) および演習内にて受け付けます。

学びの 準備	ねらい 社会の課題の解決に向けて、住民や地域社会の様々な資源と連携することの意義について理解するとともに、地域の実態、地域連携のあり方、課題の発見方法、解決のためのアプローチの諸能力を養う。	メッセージ 地域のニーズに目を向け、対応する各種の福祉施策や実践等の関心を持って、自分自身で積極的に学ぶ姿勢で受講することを期待する。実際にフィールドワークを行なう際には、その状況にふさわしい判断や行動ができるよう心がけてほしい。
-----------	--	--

到達目標 準備	到達目標 福祉の現場では、当事者（利用者）の課題解決に向け、各種専門職や関係機関の連携によって様々な取り組みがなされている。また、多様な専門職と連携していくための高い専門性や幅広いネットワークが求められ、さらに、時代や価値観の変化、社会の期待に応えていく姿勢が求められている。本演習では、地域における実践等についてフィールドワークを通して、当事者（利用者）との信頼関係づくりや自立支援に必要なインテークとアセスメントの基礎を学ぶと共に、地域の資源を知り、連携し、活用する力を身につける。
------------	--

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講座の概要、趣旨説明、フィールドワークの概要	事前説明会に参加する
2	地域の課題の現状と背景の整理	関連情報の収集
3	地域の資源（住民、行政・企業・事業所など）の理解	関連情報の収集
4	地域の資源（住民、行政・企業・事業所など）の理解（フィールドワーク）	関連情報の収集
5	地域の資源（住民、行政・企業・事業所など）の理解（フィールドワーク）	関連情報の収集
6	地域における各職種の理解と各課題別取り組み	関連情報の収集
7	地域における各職種の理解と各課題別取り組み（フィールドワーク）	関連情報の収集
8	地域における各職種の理解と各課題別取り組み（フィールドワーク）	関連情報の収集
9	地域における各職種の理解と各課題別取り組み（フィールドワーク）	関連情報の収集
10	地域における各職種の理解と各課題別取り組み（フィールドワーク）	関連情報の収集
11	地域における各職種の理解と各課題別取り組み（フィールドワーク）	関連情報の収集
12	地域における各職種の専門性と連携	関連情報の収集
13	地域における各職種の専門性と連携（フィールドワーク）	関連情報の収集
14	地域における各職種の専門性と連携（フィールドワーク）	実践の振り返りとまとめ
15	各専門職種の視点から考える多職種連携、地域課題解決の提案	実践の振り返りとまとめ
16	振り返りと今後の取り組みについて	今後の目標設定

学びの 実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。演習内で指示します。
-----------	--

評価	学びの手立て 受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守るなど、基本的なマナーはもちろん、本演習では、ナマの現場でのソーシャルワーク活動も含まれる。当事者（利用者）と触れ合った際は、学生であってもソーシャルワーカーとして個人情報等の「守秘義務」を遵守し、相手を最大限に尊重する態度で臨むこと。また、当事者（利用者）の自己判断と自己決定につながるような「寄り添い」「待つ姿勢」など、相手のよりよい自立につながる態度を心がけてほしい。
----	--

評価	主体的参加状況50%（あいさつなどソーシャルワーカーとしての基本動作、講義への向き合い方、受講生同志で支え合う力（ピアサポート）、ディスカッション参加状況30%、発表内容20%など、総合的に判断する。）
----	---

学びの 継続	次のステージ・関連科目 演習で関わった地域や関係機関とつながり、演習終了後もボランティアや学びの場として主体的に関わり続けることで、演習で得た技術や知識がさらに磨かれ、卒業後の仕事や活動に大きな力となる。
-----------	---

科目 基本 情報	科目名 グローバル・キャリア	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 村上 了太	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 村上了太（内線：5629）またはmurakamiあと@okiu.ac.jpまで連絡すること。	

学 び の 準 備	ねらい 大学生活を充実するために、 ①海外留学 ②海外インターン などを体験したい／知りたいと思っている学生を主たる対象としています。	メッセージ ①前期開催予定のオリエンテーションを受講した学生のみ履修を認めます。掲示板で確認してください。やむを得ず欠席する場合は、問い合わせ先に記載された教員まで連絡してください。なお、登録が削除されても代替科目的履修を提供することはありません。 ②社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、様々な質問も投げかけてみてください。
	到達目標 ①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学 び の 実 践	学びのヒント		時間外学習の内容
	回	テーマ	
1	産官学のキャリア形成から学んだこと		産官学の仕事について調べる
2	生きる力（1）一人生と仕事一		人材に関する『論語』等を読書する
3	海外キャリア形成 一グローバル人材とは何か？一		グローバル人材について調べる
4	海外キャリア形成 一沖縄と台湾での起業一		海外起業家について調べる
5	生きる力（2）一人生と仕事一		稻盛和夫『生き方』を読書する
6	グローバル企業のアナリストから見た沖縄経済		沖縄経済を知る
7	グローバルキャリアとローカルキャリア 一グローバルキャリアをローカルに活かす一		グローバルキャリアについて調べる
8	国際環境の変化とグローバル人材育成		国際的な問題について調べる
9	海外留学のすすめ		留学や奨学金について調べる
10	海外キャリア形成 一アジアで就職した先輩の事例紹介一		海外就職について調べる
11	目標の設定と自己成長 一英国大学院留学と外資系企業勤務一		自分の目標を記してみる
12	より良い仕事、よりよい人生とは？一沖縄和の課題と未来一		沖縄県の課題について調べる
13	キャリア形成に必要なコミュニケーション能力		コミュニケーション力を理解する
14	キャリア形成に活かすセルフプランディング		セルフプランディングを理解する
15	振り返りおよびグループ学習・発表		自分の目標と行動計画を作成する
16	予備日		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。

学 び の 実 践	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場もある。ゆえに、1) ノートにメモをとる、2) 各回の講義の意味を考える、3) 将来像を設計し、機会に応じて意思表明する場を設ける、などが必要である。

学 び の 継 続	評価 平常点（50点）、試験またはレポート（50点）の割合で評価する、

次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学I、心理学II、インターンシップ（正課および正課外）、海外留学、キャリア支援課の利活用など
--

科目 基本 情報	科目名 ワーカーズコープ論	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中講義	2
担当者 村上 了太		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	村上了太(内線:5629)またはmurakami.att@okiu.ac.jpまで連絡すること。	

学 び の 準 備	ねらい 本講義は、現在と将来を考えるために設置された。たとえば、「学生として、今何をすべきか分からない」、「進路を考えると不安になる」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々過ごしている学生も少なくない。このような不安や不満は、本講義で示唆される「一歩前へ踏み出す力」を涵養することで解消される。	メッセージ ①社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、質問も投げかけてみてください。 ②時間厳守は当然のことです。 ③レポートは講義中に提出期日と課題を指示します。
	到達目標 ①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。 ③「働くとは?」という考え方に対して多角的な視点が生まれてくる。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	関連書籍による理解
2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解
3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解
4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解
5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解
6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解
7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解
8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解
9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解
10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解
11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解
12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解
13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解
14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解
15	本講義もまとめ（働くこと、生きること）	関連書籍による理解
16	予備日	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。

学 び の 手立て	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために「大学とは」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1)ノートにメモをとる、2)各回の講義の意味を考える、3)将来像を設計し、機会に応じて意思表明する場を設ける、などが必要である。

評価	各回の理解度(25点)、提出物(25点)、レポート(50点)の割合で評価する。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、インターンシップ(正課および正課外)、海外留学、キャリア支援課の利活用、県内外に存する関連施設の視察など。

科目 基本 情報	科目名 租税実務論	期別	曜日・時限	単位	
		集中	集中講義	2	
担当者 沖縄税理士会		対象年次	授業に関する問い合わせ		
		2年	info@okizei.or.jp		

学 び の 準 備	ねらい 会計及び税法の講義を通じて、学生の税理士及び税理士制度への関心を深め、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を図る。	メッセージ 税金と社会生活には大きな関わりがあります。その税のしくみについて、分かりやすく講義しますので、将来税理士を目指す方や税理士事務所で就職することに興味があるかたは、一緒に学びましょう。
	到達目標 ・日本の財政と税金のしくみについて理解できる。 ・様々な税金について、理解を深めることができる。 ・税理士の職務内容を理解すると共に、税理士事務所で就職する意義について理解できる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	1 租税実務論 概論		シラバスの確認と理解
	2 所得税		前回の講義についての復習
	3 所得税		前回の講義についての復習
	4 日本の財政と税制		前回の講義についての復習
	5 所得税		前回の講義についての復習
	6 所得税		前回の講義についての復習
	7 広がる税理士ニーズ		前回の講義についての復習
	8 法人税		前回の講義についての復習
	9 法人税		前回の講義についての復習
	10 税理士って？資格取得～実務		前回の講義についての復習
	11 消費税		前回の講義についての復習
	12 消費税		前回の講義についての復習
	13 税金の仕組みと歴史		前回の講義についての復習
	14 相続・贈与		前回の講義についての復習
	15 相続・贈与		前回の講義についての復習
	16		前回の講義についての復習

テキスト・参考文献・資料など ・講師で資料を準備する。

学びの手立て ・集中講義で実施するため、毎回の講義には必ず参加すること。やむを得ず欠席する場合には必ず連絡すること ・基礎的な税のしくみについて、本やインターネットで調べておくことが望ましい。
--

評価 ・授業態度（30%）とレポート課題（70%）を踏まえ、総合的に評価する。
--

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 ・法律学科の提供科目である「租税法」を履修することが望ましい。 ・学んだ知識を実践の場で活かすために、税理士事務所へのインターンシップを積極的に行ってほしい。
-----------------------	---